第 48 回　住吉大社（その１：参詣記）

筆者：林　久治（記載：2018 年１月 13 日）

（１）前書き

私（筆者の林）は Random Walks （乱歩）という題名で偏屈老人（林久治）の気侭な紀行文のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

昨年末、家内と私は大阪の息子宅に行き、私共は年末年始を初めて大阪で過ごした。クリスマス・イブには、一族８人（私の家族３人と娘の家族５人）が娘の家に集まって、夕食会を楽しむことができた。しかし、その夜に娘の次男（４才）がインフルエンザを発症したので、私共は彼を息子宅に引き取って看病した。孫は早く治って、娘の家族にはインフルエンザがうつらなかった。しかし、予防接種をしていた家内と、していなかった息子にはうつってしまい、１月３日から二人の病状が悪くなった。予防接種をしていた私は、最年長ながら何とか元気で、家事と看護に追われてしまった。

以上の事情で、今回の年末年始は私にとって、あまり快適ではなかった。しかし、「今月の３日で 76 才になった私が、妻子や孫達のためにまだまだ役に立てた」と思うと、「生まれて来て良かった」と、両親に感謝している。その間をぬって、私は１月２日に大阪の住吉大社を参詣した。初詣の人気は住吉大社が平安神宮に次いで全国２位で、人出は約 234 万人で全国７位だそうである。今回、私は住吉大社を初めて参詣するので、「どんな神社だろうか？」と大いに期待していた。今回は、その参詣記を以下に記載する。

（２）住吉大社へのアクセス

住吉大社へのアクセス地図を、次ページの図１に示す。本図が示すように、住吉大社付近の電車路線は複雑であり、歴史も同様に複雑である。現在では、大阪市の中心部から住吉大社に行くには、次の３ルートが主である。

①南海電鉄の南海本線・始発駅の「難波駅」から「住吉大社駅」に行くルート：「住吉大社駅」は「難波駅」から５番目の駅で、普段は各停しか停車しない。しかし、正月三が日のデータイムには、区間急行・急行・空港急行が臨時停車する。阪堺鉄道は 1885 年 12 月 29 日に、難波駅を起点にし、天下茶屋、住吉を経て大和川北岸（大和川駅）に至る区間の営業を開始した。1898 年 10 月 1 日 阪堺鉄道が南海鉄道に事業譲渡。「住吉大社駅」は、1912 年 2 月 17 日 に、南海鉄道の住吉駅（1917 年廃止）と住ノ江駅間に「住吉公園駅」として開業した。

②大阪市営地下鉄の堺筋線の終着駅の「天下茶屋駅」から南海電鉄の南海本線に乗り換えて「住吉大社駅」に行くルート：堺筋線は 1969 年に開業した。難波駅で地下鉄から南海電車への乗換は道順が複雑で時間がかかるので、天下茶屋駅での乗換の方が便利である。

③阪堺電気軌道上町線で、「天王寺駅前」から「住吉鳥居前」に行くルート：1900 年に、大阪馬車鉄道が天王寺南詰（現在の天王寺駅前交差点付近） － 八弘社（現在の阿倍野） － 阿倍野（現在の東天下茶屋）間 1.7 km を開業。1902 年には、上住吉

－下住吉（現在の住吉）間が延伸開業。1909 年、南海電鉄と合併し、上町線となる。1980 年には、南海電気鉄道株式会社（甲）が上町線（天王寺駅前－住吉－我孫子道－浜寺公園）と阪堺線（恵美須町－住吉－我孫子道）の軌道事業を阪堺電気軌道株式会社（乙）に営業譲渡（ただし、乙は甲の子会社である）。

図１．住吉大社へのアクセス　本図は、１）のサイト/より借用（一部改変）。

本年の１月２日、私（林）は北千里の息子宅から住吉大社に行った。北千里駅は、阪急千里線の始発駅で、千里線は地下鉄の堺筋線と相互乗り入れをしている。従って、北千里駅から天下茶屋駅まで、直通で座って行けるのが便利である。私は、北千里駅発８時 47 分の電車に乗り、天下茶屋駅に着いたのは９時 30 分少し前であった。天下茶屋駅の構内を少し調査し、南海電車の住吉大社駅に着いたのが、９時 45 分であった。吹田市の北端にある北千里駅から、大阪市の南部にある住吉大社駅までの所要時間は１時間足らずであった。

（３）住吉大社の参詣

住吉大社の紹介サイトは多数あるので、詳細はそれらに任せて（例えば、２）のサイト/mが優れている）、本稿では私（林）の印象を主に書くことにする。次ページの図２に、住吉大社の境内図を示す。住吉大社駅から住吉大社の方に向かうと、直ぐに阪堺電車の軌道がある。図２左の①地点から撮影した写真を、次ページの図３左に示す。阪堺電車ではカラフルな電車が色々と走っている。私はこの路面電車に一度は乗って見たかった。次回、阪堺電車を紹介することを予定している。

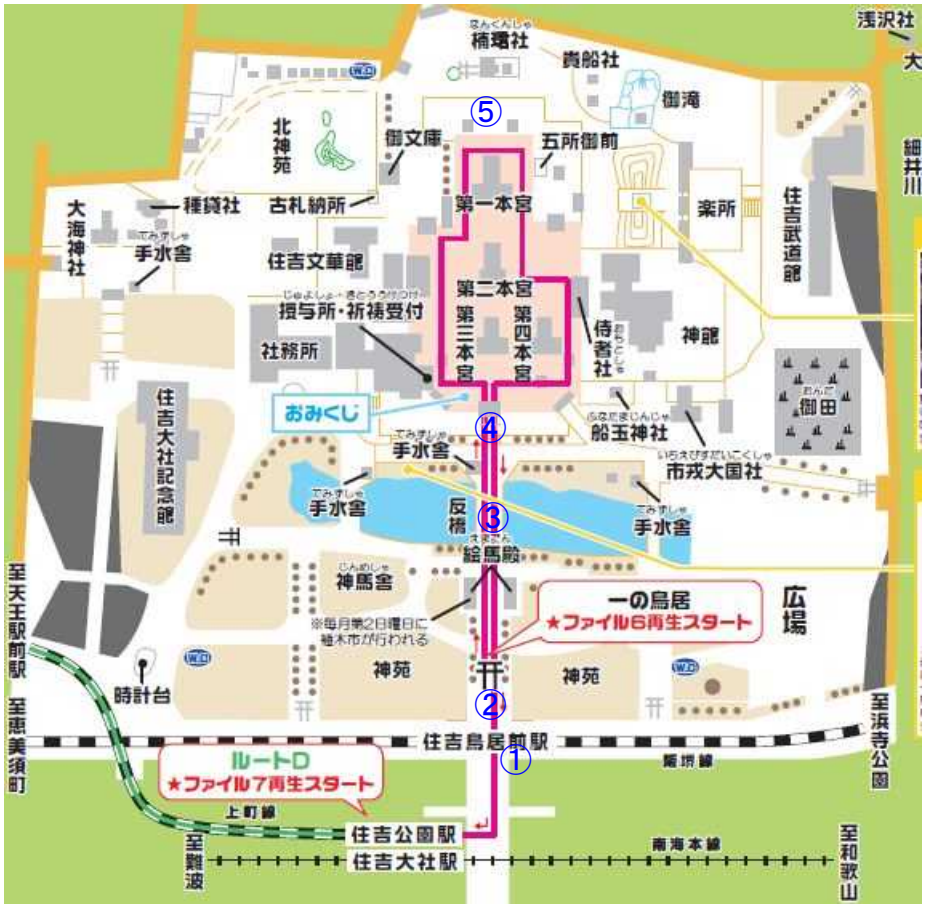

図２．左：住吉大社の境内図　本図は３）のサイト/1より借用（一部改変）。なお、上町線の「住吉公園駅」は 2016 年に廃止された。**右：住吉大社の石碑。**

図３．左：阪堺電車の軌道と住吉大社の一の鳥居。（図２左の①地点から撮影）
右：一の鳥居の先に反橋が見える。（図２左の②地点から撮影）

一の鳥居前の先に反橋（そりはし）が架かっている。「太鼓橋」とも称され、住吉大社を象徴する橋である。高さは 4.4 メートル。鎌倉時代の「諸神事次第記」にも橋の記述が見える。現在の橋は 1981 年の造営によるものであるが、石造の脚・梁部分は慶長年間（1596-1615 年）の造営になり、豊臣秀頼によるものとも、淀殿の寄進によるものとも伝わっている。（本文は、５ページに続く。）

図４.

上：反橋の賑わい

（図２左の③地点から撮影）

中：角鳥居と幸壽門

（図２左の④地点から撮影）

下左：幸壽門から第三本宮が見える。

（図２左の④地点から撮影）

住吉大社は摂津の国の一宮で、全国にある住吉神社の総本社である。（なお古事記阿波説では、ここの住吉大社は阿波・住吉村の住吉神社から分祠されたと考える。）先の大戦では、住吉大社は空襲の被害を受けなかったので、古い社殿が多く残されている。そのうち、現在の本殿４棟は 1810 年の遷宮で造営されたもので、国宝である。4 本宮の外周に巡らされた瑞垣には、西側に幸禄門（西北面）・幸壽門（幸寿門、西面）・幸福門（西南面）の 3 門が開く。そのうち第三本宮正面の幸壽門の門前には角鳥居（かくとりい）が建てられている。「角鳥居」の名は柱が四角柱であることに由来し（本宮の渡殿内にある鳥居も同様の柱）、その独特な形式により「住吉鳥居」とも称される。

図４上の写真は、１月２日午前 10 時頃の「反橋の賑わい」である。橋の傾斜はかなりきつく、足の弱いお婆さんは登るのに難儀していた。この写真の人出は序の口で、混雑時には反橋の上は参詣客で溢れ、橋の前では待っている人々で大渋滞である。例えば、本年元旦の住吉大社初詣の動画は、４）のサイト/Qで視聴できます。

住吉大社の４棟の本殿（本宮）は、図２左に示すように、奥から第一本宮、第二本宮、第三本宮が縦に並び、第三本宮の右に第四本宮が配置されている。ウィキペディア（神生み）によれば、イザナギは黄泉の穢れから身を清めるために、「竺紫（つくし）の日向（ひむか）の橘の小門（をど）の阿波岐原（あはきはら）」で禊を行った。その時に、多数の神様が生まれた。（なお古事記阿波説では、「橘の小門の阿波岐原」を現在の徳島県阿南市橘町青木地区と考える。）

多数の神様が生まれた内で、住吉三神は次のようにして生まれたそうである。

①水の底で身を清めると、底津綿津見神（そこつわたつみのかみ）と底筒之男神（そこつつのをのかみ：第一本宮の祭神）の二神が生まれた。

②水の中程で身を清めると、中津綿津見神（なかつわたつみのかみ）と中筒之男神（なかつつのをのかみ：第二本宮の祭神）の二神が生まれた。

③水の表面で身を清めると、上津綿津見神（うはつわたつみのかみ）と上筒之男神（うはつつのをのかみ：第三本宮の祭神）の二神が生まれた。

なお、第四本宮の祭神は、神功皇后である。

私は次の事が大変不思議である。①どうして、住吉大社の筒之男神は三柱なのか？②各々の筒之男神に対応して、どうして三柱の綿津見神が居るのか？これらの問題と、古事記阿波説における住吉神社の起源を、次回に検討する予定ですのでご期待下さい。答だけを簡略に示すと、「筒」は「星」の意味で、住吉三神はオリオン座の「三ツ星」を象徴するそうである（詳細は、５）のサイト/を参照して下さい）。

幸壽門を入ると、４棟の社殿があり、第一本宮より第三本宮まで東西に縦に、第四本宮は第三本宮の南に並び、全て西向きという他に例のない配置で、各本宮とも本殿は、「住吉造」と称せられる神社建築史上最古の特殊の様式で、いずれも国宝に指定されている。「住吉造」というのは、丹塗・桧皮葺・直線型妻入式で切妻の力強い直線をなした御屋根に置千木と五本の四角堅魚木を備え、周囲に回廊なく、板玉垣をめぐらし、さらにその外に荒忌垣があり、正面で「住吉鳥居」と称せられる特有の四角鳥居に接続している。６ページの図５に、第三本宮の写真を示す。７ページの図６上と中に第四本宮の写真を示す。図６下は、第三本殿と第二本宮の写真である。（本文は、９ページに続く。）

図５．上：第三本宮の拝殿、下：第三本宮の拝殿内部。

図６．上：第四本宮の拝殿、中：第四拝殿の内部、下：第三本殿と第二本宮。

図７.

上左：第二本宮

上右：第二拝殿内部の額

中：第四本殿

下：第一本宮

図７上に第二本宮の拝殿を、図７中に第二本宮の本殿を示す。第二本殿の屋根には、住吉造の置千木と五本の四角堅魚木がよく見える。図７下は第一本宮である。私が参詣した同日は、第一拝殿の内部が見られなかったが、２）のサイト/mによれば、第一拝殿の内部は他の拝殿より豪華なようだ。なぜ、第一本宮が他の本宮より豪華なのであろうか？住吉三神に序列はないはずだ。

第一本宮の南側には五所御前（ごしょごぜん）という玉垣の区画があり、内側には杉の木が生育する。社伝では、神功皇后が住吉神の奉斎場所を探す際に３羽の鷺が杉の木にとまったので、この地を鎮座地に定めたという。その写真を、図８に示す。五所御前の説明文を本稿末の図 10 に示す。

図８．神蹟「五所御前」。本写真は、ウィキペディア（住吉大社）より借用。

第一本宮の裏手（場所は図２左の⑤）には、高蔵（たかくら）２棟が南北に並んで建てられており、それぞれ「北高蔵」および「南高蔵」と称される。いずれも桃山時代の 1607 年の造営で、大阪府内にある指定文化財の蔵のうちでは最古になる。高蔵の写真を次ページの図９に示す。

本稿は長くなったので、一応ここで終了する。次回は、①住吉大社境内にあるその他の社殿や初詣風景、②阪堺電車の搭乗記、③「古事記阿波説」による住吉神社の歴史（住吉神社の元社は阿波国住吉村にあり、阿波から摂津に分祠されたのが現在の住吉大社であること）などを紹介する予定である。

図９．北高蔵（奥）と南高蔵（手前）。いずれも重要文化財である。

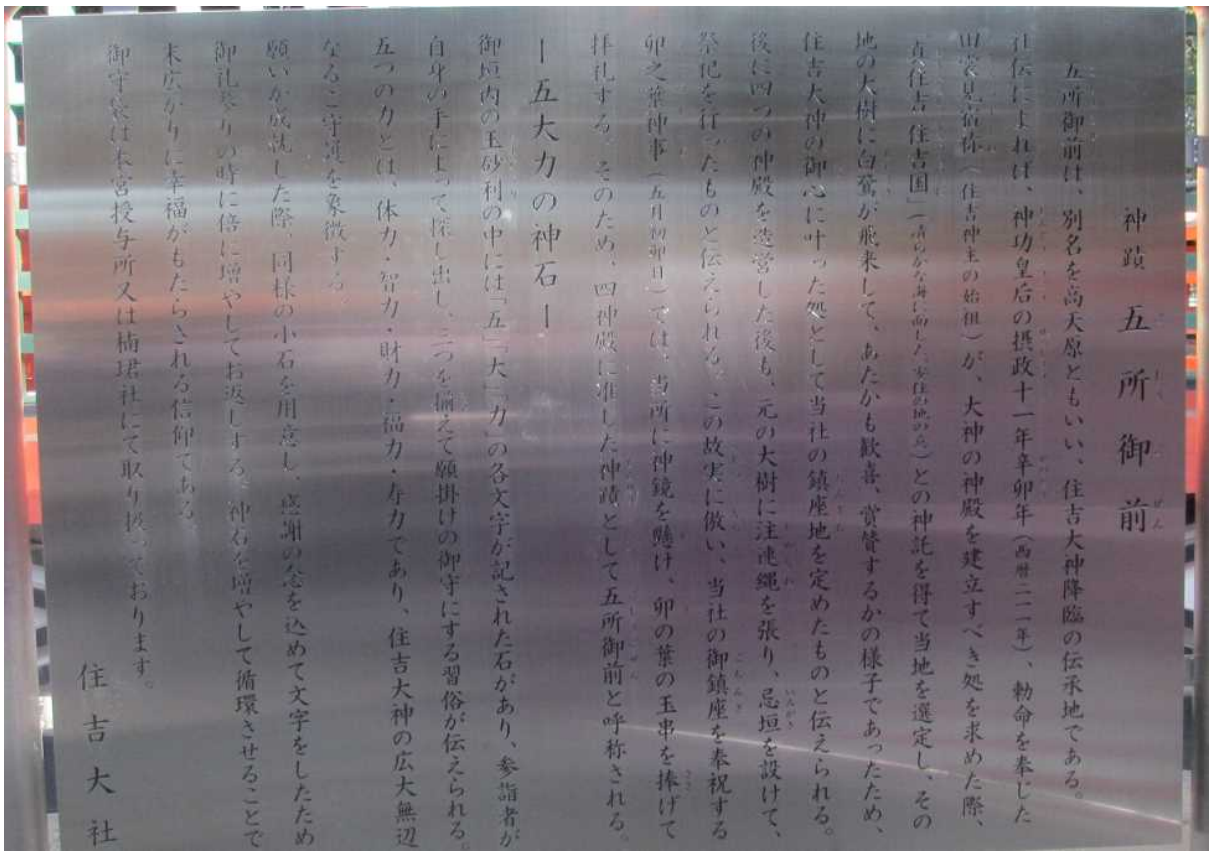

図 10. 神蹟「五所御前」の説明文

参考資料

１）のサイト：https://sumiyoshitaisha.jp/access/

２）のサイト：http://kamnavi.jp/en/settu/sumiyosi.htm

３）のサイト：http://buraoyama.blog.jp/archives/4742022.html

４）のサイト：https://www.youtube.com/watch?v=WrTTWI_o8SQ

５）のサイト：http://lunabura.exblog.jp/15412072/